**どちらへ行って来ましたか**

になって、はイエスのをえています。復活祭がづいているというのは、の終わりの日が見えているということのしでもあります。でも、私達が忘れてはならないことがあります。それは「復活のためには、必ず、の死を受け入れなければならない。」ということです。イエス様はそれをご自分のとをもってしてくださり、教会は、特に、からの三日の典礼を通して、の皆さんをイエス様のと死のに呼び集めているのです。この教会のきは、イエス様のいていたおまで信者の皆さんを導いて、その復活のびをもっと豊かにしてくれるはずです。

さて、イエス様の復活のしとして、にはなエピソードが書かれています。その中、今月には聖トマスのことについてかち合いたいと思います。彼はラザロの死の知らせがいたとき、自分のやをはっきり表した使徒でした。その時、彼は『私たちも行って、一緒に死のうではないか。』と言ったのです。、それはなテーマで、今の時代の信仰人の信仰に対してをらす言葉です。つまり、トマスはどんなに会ってもイエス様と共にすることをらかにしたのです。しかし、彼は他のと同じように、イエス様の十字架のにいませんでした。どちらへ行ったのかは分かりません。それからの日、復活されたイエス様は弟子達のいの中で、ご自分をされました。でも、トマスはそこにもいませんでした。また、どちらへ行ったのか…。その後、彼はイエス様にった使徒たちに復活についての強いをしました。自分はイエス様の十字架や復活の現場にいなかったのに。しかし、イエス様はそのトマスのに、もう一度弟子が集まっていた所でご自分を現してくださいました。そこで、トマスはしてイエス様を神様としてめ、その信仰をしました。

信者の皆さん、私達の信仰生活とはイエス様のおられる所に共にいることです。愛深いイエス様は、使徒たちを始、今の時代の私達のために、教会の見えるを通してご自分を現しておられます。しかし、私達のい心はその秘蹟からも自分をざけようとしているという気がします。また、その秘蹟からではなく、他の所でもイエス様に会うことが出来るのだと考えるに捕らわれているかもしれません。そのような私達にイエス様は、『見せてあげようとしていても見ようともしないのに、私が見えない所で私に会うことができるだろうか。』と話しかけておられます。

今、私達はどこに立っていますか。どこでイエス様をしていますか。されたイエス様はに、教会で、特に、『これを私の記念として行いなさい。』と命じられた秘蹟の中で私達を待ちながら招いておられます。皆さん、今年のをとして、そのきに、もっとに答えましょう。